

2025年度  
事業計画書

自 2025年 4月 1日  
至 2026年 3月31日

2025年 5月23日

一般社団法人日本ロボットシステムインテグレータ協会

# 2025年度 事業計画

## I. 事業方針

1. 本年度は、重点項目として次の事業活動を展開する。
  - (1) SIerを中心としたFA・ロボット業界ネットワークの構築
  - (2) SIer事業基盤の強化
  - (3) システムインテグレーションに対する専門性の高度化、人材育成
  - (4) 次世代を担う人材に対するSIerの認知度向上
  - (5) 各地域との連携の構築
  - (6) デジタルを用いたロボットSI教育システムの構築
  
2. 本年度の重点項目に関する活動は、幹事会（運営委員会）、事業企画部門、協会業務部門、人材育成部門、技術部門等の事業執行部門及び各委員会が連携して推進する。また、各地域での事業活動展開に向け、地域機関および関係業界団体との連携を強化する。

## II. 各部門の活動

### 1. 事業企画部門

- (1) 会員企業の事業基盤強化に向けた施策検討  
協会会員の事業基盤の強化につながるための事業の企画・検討を行う。
  
- (2) プロセスガイドラインの作成  
昨年度に引き続き、「ロボットS I業務プロセスガイドライン」に関する検討を行う。
  
- (3) 協会主催展示会の企画運営  
ロボットシステムの周辺機器や設備メーカーがロボットシステムインテグレータへ商品情報を提供する場である「ロボットFA関連商品説明会（旧新商品サービス説明会）」や、ものづくり大学等教育機関と連携した学生向け展示会など、協会主催の展示会の企画・運営を行う。
  
- (4) 自動化コーディネータ制度の構築  
経済産業省「ロボット導入地域連携ネットワーク」の活動に呼応し、自動化コーディネータ育成方針検討、育成講座の企画、認定制度の検討など自動化コーディネータ制度の構築に関して検討を行う。

### 2. 協会業務部門

- (1) 協会及び業界の認知度・満足度向上に向けた施策検討  
協会の魅力の対外発信と会員の満足度向上、若手人材への業界認知の向上のための議論を行う。

## (2) 会員向けセミナーの企画運営

会員向けに協会主催で実施するセミナーとしてどのようなものがあるべきかを検討し、実施する。

## (3) 展示会への出展

205 国際ロボット展、未来モノづくり国際 EXP02025 をはじめ複数の展示会に協会ブースを出展する。

## (4) ロボットアイデア甲子園の開催

高校生を中心とした若者を対象とした、「産業用ロボット見学会」と「産業用ロボット活用アイデアコンテスト」を統合した「ロボットアイデア甲子園」を企画・開催する。全国大会は機械振興会館にて行なう。

## (5) 高校生ロボット S I リーグの開催

高校生が 1 年間でテーマに沿ったロボットシステムを構築し競い合う高校生ロボット S I リーグを愛知県とともに企画・開催する。最終発表会は Aichi Sky Expo にて実施する。

## (6) 地域連携強化に向けた検討

各地域における S Ier 企業間の連携や地域行政との連携の強化を目指し、その方策を検討する。各地域の状況を共有し、連携強化のための手がかりを探る。

## (7) S Ier' s Day の開催

ロボットシステムインテグレーター間のコミュニケーションの強化とロボット導入を目指すユーザーへの情報提供を目的に、全国すべてのブロックで S Ier' s Day を開催する。

## (8) ロボット導入地域ネットワークへの協力と地方行政との連携

経済産業省が推進する「ロボット導入先進地域ネットワーク」の活動に協力し、各地域の行政との連携方法を検討する。また、各地域のロボット導入推進を図る公的団体と意見交換を行う地域政策研究会を開催する。

## (9) 会報誌 JARSIA の発行

S Ier 協会の会報誌 JARSIA を発行する。

## (10) 一般広報ツールの作成

協会の紹介動画やステッカー、フラッグ、ユニフォームなど協会の広報ツールを作成する。

## (11) S Ier 統計の回収と集計

S Ier 統計の回収と集計を行う。S Ier 統計システムの改善を行い、ユーザービリティの向上を図る。また、提出率を高めるための方策を検討する。集計システムの改善を行う。

## (12) 定点観測アンケートの実施

年度末に定点観測アンケートを実施し、その結果を総会にて報告する。

## 3. 人材育成部門

### (1) 人材育成体系の検討

若年層や企業のエンジニアに対する講座や検定などS I人材育成に関する全体体系に関して検討を行なう。また、新規講座のDX基礎講座開催に向けての準備を行う。

### (2) 講座の運営

「ロボットS I基礎講座」「自動化技術講座」「大学生向け講座」などの講座の運営を行う。また、講座内容やテキスト内容の検討、インストラクターの新規採用や交流会実施を行う。

### (3) NEDO講座の実施

昨年度に引き続き、ロボットS I検定のエキスパートに対応した「ロボットシステム設計講座」をNEDO事業として実施する。

### (4) ロボットS I検定制度のリニューアル

ロボットS I検定のリニューアルを行い、若手向けの新3級を正式開催、新1級のプレ実施を行う。新2級(旧3級)およびエキスパート(旧2級)は引き続き実施する。また、新3級、新2級、新1級の厚労省認定の取得に向けて準備を整える。

### (5) ロボットS I検定制度の国際化

昨年度に引き続き、経産省・AOTS事業の一環として、ロボットS I検定制度のタイでの実施を行う。来年度のタイでの正式検定実施に向けて最終調整を行う。またあわせて、国際検定化に向けての準備を行う。

## 4. 技術部門

### (1) スキル標準の見直しとスキル読本の作成

JARSIAスキル標準の見直しと精緻化を行う。また、JARSIAスキル標準にあわせて経済産業省作成の「ロボットシステムインテグレータのスキル読本」を改訂しS Ier協会版のスキル読本を作成する。

### (2) 協会標準規格の検討

協調領域における協会標準規格商品(アイテム)の創出に関しての可能性を検討する。本年度はコントロールパネル(操作盤)の標準化可能性を中心に検討を行う。

### (3) 国際標準・国内標準の情報発信・普及と活用方法の検討

ロボットシステムインテグレーションに関連する国際標準・国内標準の情報を収集し、情報発信を行う。また、活用方法の検討を行う。

#### (4) ロボットセンターに関連する各種問題の検討

ロボットセンター運営に関連する問題をセンター間で共有し、解決策を模索する。特に、安全特別教育の実施内容及び方法の検討、センターマップの作成、センター認定制度の検討などを行う。

#### (5) 安全特別教育の講習内容検討及び講習素材の作成

安全特別教育の講習内容の標準シラバスを作成する。また、危険事例を中心とした講習素材を作成する。また、安全特別教育内容の再検討し、あるべき姿の提案を目指す。

### III. 特定の部門に属さない活動

#### (1) 外部団体との連携

RRI、CHERSI、ロボット学会などの外部団体との連携を行う。

#### (2) 各種調査・委託事業の実施

国や自治体の調査・委託事業を受託、実施する。

#### (3) 賀詞交歓会の開催

ロボット工業会、製造科学技術センターと共同で賀詞交歓会を開催する。

#### (4) 四半期報告会の実施

協会の活動の実施報告と、会員からの意見収集を目的とした四半期報告会を年3回実施する。

### IV. その他、本協会の目的を達成するために必要な活動

産学官金との連携を強化し、中長期的な視点から、ロボット・FA産業の持続的な発展とSIer業界の地位向上に資する活動に取り組む。